



上田高等学校

## 関西同窓会報

第48号

2019年(平成31年)

1月17日(火曜日)

編集発行

上田高等学校関西同窓会



### 第28回総会・懇親会

## 新校長を迎え母校との交流を深める

上田高校関西同窓会の第28回総会・懇親会は、平成30年9月1日(土)、大阪コロナホテルで開催され、会員・来賓の計37名が参加しました。午前10時からの総会に引き続く講演会は、田辺三菱製薬相談役の土屋裕弘氏が「医薬品産業の現状と将来」と題してお話されました。引き続いて行われた懇親会は、48期から83期までの参加者が交流を深めました。



挨拶をされる廣田校長

廣田校長先生、講演をされた土屋裕弘氏とお話をする方も多く、また陶芸をしている大野せき子(56期)さんは自作の六文銭入りの杯を提供され、希望者がじゃんけんをするなど盛り上がりました。最後に万歳三唱をして来年の再会を誓いました。

総会は活動報告・次年度活動計画案、会計報告・次年度予算案を承認。役員人事は新たに佐藤則一氏(70期)を副幹事長に迎える案が承認されました。

お越しいただいた来賓の皆さんは以下の通りです。金子元昭様(本部理事長)・廣田正彦様(学校長)。百瀬慎一様(同窓会担当教諭)・上原昇様(関東同窓会長)・武村洋治様(中南信支部顧問)。

午後からの懇親会では金澤信男(67期)・土屋俊夫(83期)両氏の司会のもと、和やかに進行いたしました。会場は初めて参加いた

だいた



## 若手・中堅同窓生の発掘・参加勧誘を

会長 竹内俊隆 (68期)



新年あけましておめでとうございます。平成最後の年となり、一つの時代の終焉とともに、新たな時代の幕開けでもあります。今年も同窓会をよろしく申し上げます。

以前も申し上げましたが、同窓会では故郷を思い母校のことを思うのは当然ですが、わが上田高校の卒業生には多士済々のそうそうたる人材がそろっており、同窓会はそれを生かせる場でもあります。これを生かさない手はなく、宝の持ち腐れにするのは実にもったいないです。後輩諸君にも、先輩の知識・経験から何かを得られる場としても活用していただきたいと思っております。

その為にも、若手・中堅同窓生の発掘・参加勧誘は必須と思っています。本部その他の同窓会に出席するたびに、関西方面在住の同窓生がいたら本部の事務局又は関西のフェイスブックに連絡をお願いしています。今のところ成果は上がっていないようですが、地道にお願いを続けていくしかないと思っております。

ところで、私事で恐縮ですが、小職の68期は今年度で卒業後50年を迎えます。光陰矢の如しです。本部や関東同窓会の同級生たちと協力して、盛大にとはいけませんが、なるべく多くの仲間が集まれる機会を設けたいと思っております。

### 本部・支部の活動に参加しました

2018年10月6日 竹内会長 (本部会員大会)  
2018年11月3日 佐藤副幹事長 (中南信支部  
第25回総会)

### お悔やみ申し上げます

菊池 功氏 (53期) 2017年12月22日  
平野長男氏 (41期) 2018年3月  
緑川俊彦氏 (49期) 2018年4月

### 上田高等学校関西同窓会 平成30年度 役員名簿

会長	竹内 俊隆 68期	副会長	金澤 信男 67期
幹事長	隅田修一郎 64期	副幹事長	佐藤 則一 70期
会計長	荻原 靖 74期	副会計長	尾崎 忍 76期
監事	清水 正博 67期		
顧問	石沢 誠司 60期		
企画委員会 委員長	尾崎 忍 76期 (兼)	隅田修一郎 64期 (兼)	
	金澤 信男 67期 (兼)	上記役員全員	
広報委員会 委員長	土屋 俊夫 83期	石沢 誠司 60期 (兼)	
文化委員会 委員長	武舎 一夫 73期	隅田修一郎 64期 (兼)	

### 学年幹事

保屋野文男 43期	小泉 孝雄 49期	半田 仁志 50期	翠川 健彦 51期
大瀧 忠長 52期	荒井 正自 53期	清水 克正 54期	若林 忠之 55期
大野せき子 56期	中嶋 巖 57期	白井 彰彦 58期	伊倉 邦人 59期
山本 努 60期	森田 尚文 61期	黒岩 屹 62期	丸山 文夫 64期
恩田 隆 65期	金澤 信男 67期	知野 武文 68期	伊藤 秀一 70期
中村 智子 72期	武舎 一夫 73期	荻原 靖 74期	尾崎 忍 76期
戸田 有一 79期	土屋 俊夫 83期	近江 裕之 85期	高橋 路子 88期

平成29年度活動報告（平成29年9月1日～30年8月31日）

平成29年

- ▲9月2日（土）第27回関西同窓会総会・懇親会を開催 会員28名・来賓6名（大阪コロナホテル）講演会「上田市観光経済の近況」講師：八十二銀行大阪支店長 片桐伸介様（84期）
- ▲9月11日（月）1年生対象社会講座への協力 29年度は該当者無し
- ▲10月14日（土）第11回文化サロン 参加者：16名『衰退する米国覇権システムとトランプ政権を巡る権力闘争』講師 桃山学院大学法学部 松村昌廣教授（国際政治学）
- ▲10月21日（土）上田高校同窓会会員大会に土屋広報委員長が出席。出席者約314名
- ▲11月11日（土）中南信支部第24回総会に武舎文化委員長が出席。出席者58名

平成30年

- ▲1月17日（火）関西同窓会報第46号を電子化しPDFファイルを送信。紙の会報を希望する会員には印刷した会報を送付した。本部及び他支部にはPDFファイルを送信。
- ▲2月10日（土）第1回役員会。出席者7名。
- ▲4月7日（土）第35回文化交流会を実施 参加者：11名。卑弥呼伝説の里散策と大神神社、長谷寺の参拝
- ▲6月2日（土）第2回役員会。出席者7名。
- ▲6月30日（土）関東同窓会第57回総会に尾崎企画委員長が出席 出席者262名。
- ▲7月9日（月）長野支部七夕会総会に祝電。
- ▲7月17日（火）関西同窓会報第47号発行。発行部数は500部。本部・各支部へはPDFファイルを送付。
- ▲8月25日（土）第3回役員会。出席者7名

平成30年度 活動計画（平成30年9月1日～2019年8月31日）

- ◆平成30年9月1日（土）に第28回総会懇親会を開催。会員31名・来賓6名 会場：大阪コロナホテル 講演「医薬品産業の現状と将来」講師 田辺三菱製薬株式会社相談役 土屋裕弘氏
- ◆広報委員会編集による関西同窓会報を年2回（1月17日、7月17日）発行する。1月号については、PDFファイルを作成し、メールのある会員に送付する。紙の会報を希望する会員には印刷した会報を送付する。（土屋広報委員長、石沢顧問）
- ◆文化委員会主催による文化事業を年2回開催し、会員相互の交流を促進する。
- ◇第12回文化サロン 平成30年10月6日（土）13:00-16:00 テーマ「スマホを活用する入門講座」講師 土屋俊夫氏（83期）会場 ホテルアウイーナ大阪 201号室

- ◇春の文化交流会 平成31年3月30日（土）なぜ家康は“彦根がイイ”と思ったのか？
- ◆上田高校同窓会本部会員大会をはじめ、関東同窓会総会、中南信支部総会などに代表が出席し、交流を深める。
- ◇平成30年10月6日 上田高校同窓会会員大会に竹内会長が出席
- ◇平成30年11月3日 中南信支部第25回総会に佐藤副幹事長が出席
- ◆母校社会講座への協力 医工学分野 酒井宏水氏（83期）平成30年9月11日（火）
- ◆FACEBOOKなどのIT技術により会員交流の場づくりの拡充を行う。（土屋広報委員長、他）
- ◆上田高等学校の生徒が文化・スポーツなどの分野において、近畿地区で活躍する場合は応援する。

平成29年度 会計報告（単位：円）

収支計算書（平成29年8月30日～平成30年8月25日）			
収入の部		支出の部	
前期繰越	284,372	総会費用	249,600
総会費収入	166,000	会報費	145,957
年会費	168,000	通信費	0
特別年会費	25,000	渉外費	94,460
雑収入	159,688	事務費	0
利息収入	0	雑費	12,352
次期総会参加費前納金	56,000	予備費	0
		次期総会参加費繰越分	56,000
		次期繰越	300,691
合 計	859,060	合 計	859,060



## いつも大切なもの

上田高等学校長 廣田 昌彦



このごろ Society 5.0 という言葉をよく耳にします。これは2016年に閣議決定された第5期科学技術基本計画の中で使われた言葉で、猛烈なスピードで日々刻々と変化していく時代が進みつつある社会の方向性を示すものです。Society1.0は狩猟社会、Society2.0は農耕社会、Society3.0は工業社会、そして我々は20世紀後半に到来した情報社会であるSociety4.0に住んでいます。

Society4.0では知識や情報が即座に共有されず、分野横断的な連携が不十分であるという課題がありました。時に蓄積された情報はそのまま互いに関連づけられず、人間の労働や行動範囲は年齢や障害による制約を克服できません。少子高齢化や過疎化などの重大な課題がこれらの制約のために解決にむけた対応をとることは困難でした。

現に到来しつつあるSociety 5.0では、AIやIOT、ロボットや自動走行車の技術により、これらの閉塞感は打破されると期待されています。上田高校が取り組んでいるスーパーグローバルハイスクールの取組は、まさにこのような社会に生きていく若者たちに必要な能力を身に付けさせようとするものです。これは今次教育改革を支える考え方の中核にあり、これに従って、高大接続改革や高等学校教育改革、新教育課程の編成が行われました。

しかし、私は立ち止まりたい。「変化の激しい不確実性の時代」「今を前提としない未来」「これから無くなっていく職業」などの表現に焦燥感や不安を感じるのは私だけでしょうか。確かに人類の歴史の中でも特に大きく転換していく一時期に私たちは生きているという実感がありますが、だからこそ、変えてはいけないもの、変わらずに伝えなければならないものは何かを考え、それを若者たちに「これを忘れるな」と教えていくことも、同様に大切なことだと私は思います。

上田高校は新しい取組により、さらに存在感のある学校になっています。同窓生の皆様には母校のありようを、これまで同様見守っていただきますようお願い申し上げます。

### アカデミックプレゼンテーションの取り組み

—SGH活動の魅力を校外へ発信—

SGH係 白鳥敏秀

平成27年以来4年目に入った本校のSGH活動も、おかげさまで順調に進んでおります。

この文章を書いている折しも、2年生が台湾研修旅行において、現地高校との交流や、大学や企業での研修などを終えて、無事に帰国したところでございます。全員での台湾への研修旅行も平成28年度以来3回目となり、生徒の間にもすっかり定着し、貴重な海外体験となっております。

今回は多岐にわたるSGH活動の一端として「アカデミックプレゼンテーション」をご紹介します。

これは校内生徒のSGHに関連した諸活動、と

りわけその海外研修、海外体験を一般の方々にも公開して報告するもので、年に2回、土曜公開授業に合わせて実施しております。

今年度第1回は4月14日（土）に開かれま

した。テーマは「海外研修の気づきから課題解決を考察する」で、①「SGH フィリピンスタディツアー」②「SGH ボストンスタディツアー」③「カンボジア井戸プロジェクト」④「しなの鉄道活性化プロジェクト」⑤「SGH 甲子園ポスターセッション」⑥「私の異国体験」と、主として3月に海外体験をしてきた生徒たちが、自らの活動を報告しました。

第2回は10月20日(土)に開かれました。テーマは「グローバルな視点から課題解決を考察する」で、①「私たちの夏 OBUSE 2018」②「上田市内の在日ブラジル人の人口推移」③「韓国研修報告」④「異なる学校、異なる文化～私のアメリカ体験」⑤「スイス留学報告」の発表が行われました。

### 反響を呼んだカンボジア井戸プロジェクト

発表内容は学校主催のフィリピン・ボストンスタディツアーの他、自治体による海外派遣事業、個人的な課題研究や研修、旅行も含まれます。いずれも自らの体験に即して外国や異文化との遭遇や葛藤、さらには異なる文化の人々との共存のあり方を探究し、日本や地域社会に対する問題提起を行うものでした。



カンボジア井戸プロジェクトの発表

とりわけ4月に発表された「カンボジア井戸プロジェクト」は、自ら現地に赴いて、松尾祭でバザーを行って得た資金を用いて井戸を掘削することで現地住民の生活の向上に寄与する、という草の根型の援助活動で、事前に新聞などで報道されたこともあって大きな反響を呼びました。

### 聴衆自らもこの行事に参加

聴衆にはプレゼンテーションの評価用紙が配られ、その講評を書くことで、自らもこの行事に参加します。国内外で活躍する生徒の姿に感動したり、流暢な英語に感心したりと、全般的には好評をいただいております。



SGHボストンスタディツアーの発表

学年PTA総会、土曜公開授業の日に併せて実施することにより、保護者も気軽に生徒の活動に触れることにもなり、小中学生が一足早い「SGH体験」をし、入学への決意を固めてくれることにもつながります。

何よりも、発表する生徒はこうした機会を通じて、着実に思考力や表現力を身につけていくことになります。SGH活動における課題研究や探究活動は、2年後に迫ってきた大学入試改革においてもきっとプラスに作用するものと確信しております。

OB、OGの皆様には日頃からSGH活動に対してご助言やご支援を賜り、まことにありがとうございます。お時間がありましたらこのような行事の際に母校に足をお運びいただき、後輩の活躍をご覧いただければ幸いです。

なお、2月9日(土)には「SGH報告会」として、上田中央公民館において、多くの生徒たちがポスターセッションやプレゼンテーションの形で日頃の探究活動の成果を発表いたします。公開行事ですので、ぜひお気軽にお出かけ下さい。

また生徒の諸活動は本校のウェブサイトでも随時紹介しておりますので、ご覧ください。

## 医薬品産業の現状と将来

### ～自由闊達な企業風土で夢のある創薬を～

田辺三菱製薬株式会社 相談役 土屋裕弘氏のお話から

私は1947年、松本市で6人兄弟の5番目として生まれました。小中高と松本で過ごし、京都大薬学部に入り、吉田寮で寮生活を送りました。竹内会長とは寮で一緒でした。このたび竹内会長から要請がありましたので、本日、上田高校出身でない私（松本深志高校卒）がお話させていただくことになりました。

大学院博士課程を修了し、田辺製薬に入社しました。当社は日本で最も歴史のある製薬会社で、世界でも2番目です。1678年の創業で、今年340年を迎えました。2007年に三菱ウェルファーマ株式会社と合併し田辺三菱製薬となりました。3年前に大阪・道修町（どしようまち）の本社ビルを建て替えましたが、当社の事業にまつわる歴史的資料を展示する史料館を併設し、当社の歴史と共に、日本の“薬”にまつわる歴史について一般公開しています。

日本で一番大きな製薬企業は武田薬品工業ですが、世界では17位です。田辺三菱製薬は世界で39位、国内では6位です。報道で伝えられている通り、武田薬品は積極的なM&Aを進めていますが、企業は単に規模の拡大を追求するだけではなく、規模や地域に合致した経営を展開する事が重要だと考えます。

#### 上市できるのは3万個に1個

医薬品の創製は10年から15年先の上市（市場で販売する）を見据えて進めています。基礎研究に2～3年、非臨床試験に3～5年、臨床試験に3～7年、さらに承認審査に1～2年かかり、ようやく発売にこぎつけます。しかも、最初の研究で扱った化合物のうち、3万個に1個しか上市できません。創薬には、このように長い時間と多大の労力が必要です。国内外で上市された医薬品は、この10年間で振り返ってみても各種のがん、エイズ、関節リウマチ、骨粗



お話をされる土屋裕弘氏

鬆症等で多くの人々の治療に貢献しています。

日本の製薬企業の上位10社は売上高の約20%を研究開発費に投資しています（2014年の調査）。この研究開発投資によって、日本はアメリカ・スイスに次ぐ世界第3位、アジアでは唯一の新薬創出国となっています。

#### 医薬品産業における関西の強み

関西は全国の各エリア別の医薬品製造の出荷額で、関東甲信の27%に迫る25%を占めています。また、関西には研究機関として、京大・大阪大・神戸大・奈良先端大・理化学研究所などがあります。これらに加えて、彩都（茨木市・箕面市）のライフサイエンスパーク（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所など）、北大阪健康医療都市（吹田市）の国立循環器病研究センター、播磨科学公園都市のSPRING-8などのバイオクラスターが集積しています。

#### 始まりは研究者の自由な発想

田辺三菱製薬は自由な発想と、産学官のコラ



ボレーションによって多くの医薬品を創製してきました。これらの多くは研究者の自由な発想から生まれています。

例えば、不老不死の漢方薬といわれた冬虫夏草の菌の培養液から免疫抑制活性をもつ物質を発見し、京都大学・三井製糖との連携、さらにはノバルティスファーマとの協業により「イセムラ」という多発性硬化症治療薬を創製しました。

また、糖尿病の治療薬では新しい発想から独創的な新薬を創製しました。糖尿病は、血液中のブドウ糖が過剰に存在する状態で、尿中に糖が排泄されます。これを「余分な糖を尿として積極的に捨ててしまえないか？」という研究者の逆転の発想から、画期的な新薬が生み出されました。当社とジョンソン&ジョンソン社との協業により研究が加速され、「カナグル」という糖尿病治療薬が創製されました。

#### 自由闊達な企業風土を

私は入社当初、応用生化学研究所に配属され

ましたが、その後、組合の役員をしたり、経営企画の仕事をしたり、様々な部署を経験しました。私は異動と協業が重要であると思っています。企業風土は社員の行動様式によって培われます。

異動では会社のさまざまな組織、仕事、人と接し、連携することができ、考える社員・行動する社員を育てます。また、社内のコミュニケーションが進むことによって円滑な協業が進みます。

私の信条は「逆命利君（命に逆らいて君を利用する、之を忠と謂う）」です。上司の指示通りに動くのではなく、上司に臆することなく進言し互いに議論し、最善の道を見つけ出すことが重要です。そのためには部下の意見を受け入れる上司と、上司に意見を進言する部下の両方の関係が必須です。このようなことが、当たり前に行われている企業は、自由闊達な風土の企業といえるでしょう。

(要約：石沢誠司)

## 母校の社会講座に出席して

奈良県立医科大学医学部 教授 酒井 宏水（83期）



関西同窓会のご推薦で、2018年9月11日に母校に招かれ、1年生を対象とした講義を行ってきましたので、ご報告いたします。

昔と変わらぬ古城の門を何十年ぶりかに入り、感慨深いものがありました。廊下の壁に掲示されていたスーパーグローバルハイスクールとしての国際交流の実績が目に入り、時代は変わったと思いました。

大学教員のほか企業技術者、医師、市役所、旅館等々、多分野の同窓生約9名が講師として招かれ、金子同窓会長、廣田校長のご挨拶のあと、各教室に分かれ1時間ほどの講義を行いました。

私からは、現在奈良医大で取り組んでいる人工赤血球の研究を紹介しながら、研究の楽しさと研究者としての厳しさ、高校卒業後の大学・大学院・ポスドク・留学経験、幾つもあった人生の岐路を経てきたこととお話しさせていただきました。

私達の頃に比べて、現在は何事についても膨大な情報が簡単に手に入り便利になりましたが、情報に振り回されることなく、あとで自分が歩んだ道が正しかったと言えるよう、岐路に立ったとき自分の強い信念を持って選択して頂きたいと願いを伝えました。拙い講義で反省していた折、学生のアンケート結果が届き、概ね役に立ったとの感想で、胸を撫で下ろしました。

## 「スマホを活用する入門講座」

土屋 俊夫（83期）

### スマホは今や若者の必需品

いまや、朝晩の通勤電車では、スマホを手にしていないの方が少ないくらい、スマホは人々（特に若者）の生活にはなくてはならないものになりました。通勤電車ではゲームをしている人が多いようですが、スマホが生活を大きく変えたのは SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）にあると思います。

### スマホの SNS が生活を変えた

SNS とは交友関係を構築する Web サービスを言い、代表的なものにはフェイスブック（以下 FB）、インスタグラム、ツイッター、ラインなどがあります。FB は当関西同窓会の情報発信でも利用していますが、近況や個人的なイベントを多くの人に知らせるのに広く用いられています。FB の様子を知りたい方はぜひ関西同窓会の FB をご覧ください。（スマホなどで「上田高校関西同窓会」と検索するとすぐ出てきます。）インスタグラムは今年の流行語大賞にもなった「インスタ映え」で有名になりましたが、きれいな写真・美しい写真で皆さんの生活を華やかに見せてくれます。

### スマホと SNS を利用する際の危険性

一方で、スマホと SNS を利用する際の危険性はあまり正しく理解されていないことが多いようです。「このスマホは自分しか使わないし、それほど心配する必要もないだろう」と思っていないでしょうか。

現実社会にたとえて言うなら、自分のスマホ・PC は自分の家、インターネットは道路・鉄道・航空網にあたります。インターネットのすごいところ（怖いところ）はその自分の家を出てから、地球の裏側の街に行くまで、1秒もかからないところです。そのいいところは、世界中の観光地・お店・友人を簡単に訪問可能なことですが、その反面、新聞のニュースでしか見ない国際窃盗団・テロリストも1秒であなた



の家には到達できます。

私が子供のころ、生まれ育った田舎では、私の家を訪ねる人は近所のごくわずかの人のみでしたから、家の玄関は鍵がかけられたことはありませんでした。しかし今東京や大阪の繁華街の大通りにあなたの家があったとしてドアにカギをかけないことがあるでしょうか。

### スマホのセキュリティを保つために

スマホはもはやただの電話ではなく、あなたが守らなければならない非常に多くの情報を蓄えています。そのセキュリティを保つためにぜひ次のことに気を付けてください。

- パスワードはきちんと設定する。
  - 面倒でもできるだけ複雑なものを
- メールで送られたリンク・アプリなどは絶対に開かない。
  - メールアドレスは秘密にできない
- SNS で知らない人からの依頼には絶対に許可しない。
  - 知っている人からの依頼でもよく注意
  - おかしな日本語のメールは間違いなく詐欺です
- セキュリティソフトを入れる。
- 大事なものはバックアップを作る。

スマホと SNS を上手に使うことで皆さんの生活が更に豊かになることを願っております。

（※文化サロンは2018年10月6日、大阪市のホテルアウリーナで開催され、10名が参加しました。）



## 野球史に名をのこす上田高校の大先輩：宮原清

48期 関口 貞雄

### 宮原清の生い立ちと慶応義塾入学



慶応大学時代の宮原清  
youtube.com より

長野県中学上田支校最後の卒業生宮原清（敬称略）は、第1回早慶野球戦で慶応の主将、二塁手、4番打者で出場して勝利し、野球史に名を残した。後年、実業界に入ってから社会人野球協会会長としてアマチュア野球の普及に貢献し、野球殿堂入りした大先輩である。

宮原清は明治15年12月（1882）長野県小県郡田沢村（現青木村）田沢温泉の温泉宿の次男として生まれた。同年の4月に隣村の殿戸村（現青木村）では五島慶太が生まれている。

宮原は明治29年（1896）長野県中学上田支校へ入学した。宮原の上田支校入学は五島慶太の1年後になるが、五島は3年終了と共に長野県中学松本本校へ転じたので、殆ど接点はなかったと推測される。

明治29年（1896）松本本校から野球が導入され、上田支校に野球部が誕生した。宮原は清水長之助と共に中心的な役割を果たした。宮原は幼少時から憧れていた福沢諭吉を身近に感じ、慶応義塾で学ぶ志望を抱いた。両親の理解で、明治33年（1897）慶応義塾普通部5年に転入し、翌年慶応義塾へ入学することが出来た。宮原は幸運にも生前の福沢諭吉に直接薫陶を受けることが出来たと云う。入学と同時に明治25年創立の体育会野球部へ入部した。

### 第1回早慶野球戦では慶応の主将、二塁手で4番打者

当時の野球界は第一高等学校の全盛時代で、内村裕之投手（内村鑑三の長男、後東大教授、精神医学の開拓者、初代プロ野球コミッショナー）を擁して無敵の強さを誇っていた。打倒一高の悲願から、早稲田から慶応に野球定期戦の申し入れがあり、明治36年（1903）11月23日第1回早慶野球戦が挙行された。

宮原は慶応入学と同時に上田中学野球部の仲間と後輩に声をかけ、慶応入学と野球部入部を勧めていた。従って試合当日の慶応ベンチには上田中学野球部出身者が4人いて、宮原は主将、二塁手で4番打者、桜井弥一郎が当日の投手、清水長之助（3名は上田支校最後の同期入学）と鷲沢与四二（上田中学1期生）が控えていた。試合結果は接戦の末、慶応が11-9で早稲田を下し、桜井は勝利投手として球史に名を残した。

明治39年（1906）に応援の過熱により決裂、中止された早慶戦は大正13年（1924）に復活し、東京六大学野球戦が発足したのは大正14年（1925）のことであった。

## 卒業後、関西へ来た宮原清

### 阪急沿線の住宅開発をする

宮原は明治38年（1905）慶応義塾を卒業し、大阪の藤田組（土木、建築）へ入社した。そして土木工事、住宅地開発、住宅建築等を実地で学んだ。

明治43年（1910）には、慶応の先輩小林一三の勧誘を受け、箕面有馬電気軌道（後の阪急電鉄）に重役として入社した。小林一三は大阪郊外の電鉄沿線の住宅地開発を開始しており、宮原

は経験を生かして責任者に任命され、豊中、池田、川西、宝塚、西宮、神戸と次々と住宅地を完成させた。

しかし初期には苦闘の連続で、小林の意向でモダンな本格的郊外住宅を目指したので、一区画が100坪（330平方メートル）とした。小林のアイデアで割賦販売を行ったが、容易には買い手がつかなかった。

そこで宮原は川西市の新開発地に率先して10区画（約1,000坪）を買い入れ、自宅を建てて誘い水とした。豪壮な門構えの邸宅で、昭和38年（1963）宮原が没した後もご家族は住んでおられた。私が昭和50年（1975）に川西市へ転居してきたときに宮原の表札を見た記憶がある。今年5月私は邸宅を再度訪れたが、正門は既に撤去され、周囲の垣根と勝手口だけが残り、かつての母屋は既に取り壊されていた。



慶応の先輩・小林一三

### 神島化学工業〈株〉創立

大正6年（1917）宮原は肥料を製造する神島化学工業〈株〉を設立して社長に就任した。肥料の需要増大に対処するため国産化を進める国の方針にも合致し、業績を伸ばすことが出来た。設立に当たって小林一三の助言と支援があったと推測される。大阪府八尾市に主力工場があり、戦後も順調に成長して好業績を維持したが、肥料業界の需要減退と構造変化に対応するために同社は2分割され、一方は肥料会社に（後に三菱商事肥料部門に統合）、もう一方は建材会社として住宅用建材、化成品、セラミック等を生産し、現在も東証二部に上場されている。

## 野球とのかかわり

### 夏の甲子園高校野球大会



晩年の宮原清 wikipedia より

事業家小林一三は宝塚少女歌劇団を立ち上げて後、人気が出てきた学生野球に注目し、大正4年（1915）朝日新聞社に呼び掛け、阪急沿線の豊中運動場で第1回全国中等学校野球大会が開催された。現在の夏の甲子園全国高校野球大会の原形である。野球に無縁だった小林の相談相手、助言者は宮原であった。

しかし豊中運動場は狭く、当時の箕面有馬電気軌道の運行本数が少なかったので大勢の観客を運びきれず、第3回大会からは阪神電鉄沿線の鳴尾球場、更に第10回大会からは甲子園球場で開催され、後援者は阪急電鉄から阪神電鉄に移行した。後年小林がプロ野球の経営に興味を抱き、阪急ブレーブス球団を設立したが、その時に相談相手となったのが河野安通志で、第1回早慶戦の早稲田の投手であった。

河野は早大野球部監督を長年務め、アメリカ遠征を何回も行ったのでアメリカのプロ野球の事情に明るかった。この様な情報を宮原は小林に提供したと思われる。因みに小林も河野も後に野球殿堂入りを果たしている。

### 春の選抜高校野球大会と社会人野球大会（都市対抗野球大会）

朝日新聞社のライバル毎日新聞社は春に選抜方式で中等学校野球大会を計画し、第1回大会が大正13年（1924）山村球場で開催された。この時毎日新聞社の相談役となったのが宮原で、大

会の運営は前年秋に行われた地方大会の実績を基にした選抜方式を採用した。宮原はその選考委員長を務めた。第2回以降は夏の大会と同じ甲子園で開催された。

また、宮原は社会人野球の普及に私財を投じて務め、毎日新聞社に声をかけ、同社が主催して昭和2年(1927)第1回大会が東京の神宮球場で開催された。昭和24年(1949)日本社会人野球協会が設立されると、宮原は会長に就任した。後年、アジア野球連盟の設立にも努力し、推されて会長も務めた。

### 野球殿堂入り

昭和38年(1963)宮原清が没すると、長年の日本アマチュア野球界の発展に貢献した功績が評価され、野球殿堂入りが決定した。早慶戦の勝利投手桜井弥一郎は慶応野球部の監督を務め、三田倶楽部会長を務めたが、昭和33年(1958)74歳で死去した。後進の育成と野球の発展に貢献した功績で、前年一足先に野球殿堂入りを果たした。

## 晩年の文化活動

### 逸翁美術館理事長と藤田美術館長に就任

宮原は晩年に文化活動も熱心に行っている。お世話になった藤田組、阪急電鉄と小林一三に対する報恩の気持ちからの行動であった。慶応義塾卒業後、最初に就職した藤田組のためには執事長を引き受け、更に藤田家に伝わる国宝の陶器数点を含む陶器類、絵画等を展示する藤田美術館の館長に就任した。



小林一三記念館の門

一方、阪急電鉄が池田市の小林一三別邸に記念館「逸翁美術館」を設立すると、理事長に就任して積極的に協力した。小林が生前に蒐集した茶器、陶器、書画等約5,500点の他、宝塚歌劇関係の資料も展示している。開館50周年を期に他の場所に新装開館したので、別邸は「小林一三記念館」として開館した。

野球一筋で文化活動に無関心、無縁だった宮原が晩年になってこの様な文化活動に熱心になったのには理由がある。若き日、小林一三に招かれて入社し、電鉄沿線の住宅開発に従

事した時、豊中市―池田市―川西市を結ぶ丘陵地帯には多数の古墳が点在していた。古代の渡来民秦氏、東漢氏がこの一帯に住み、養蚕を盛んにして大和朝廷の財政を支えた。

これ等の古代渡来民の古墳が数多く残されていたが、住宅開発の時、その古墳群を容赦なく掘り起こして住宅地に変えた。今では数えられる程少なくなり、池田市の茶臼山古墳、双子塚古墳、鉢塚古墳、川西市の勝福寺古墳等が保存されているのみである。ある学者は「小林一三は新しい文化の創造者ではあるが、古い文化の破壊者である。」と評している。

小林の指示で実行したとはいえ、宮原は心が痛んだに違いない。これが晩年の文化活動につながったものと思われる。

### おわりに

上田高校の大先輩宮原清と、同じく一年後輩で第一回早慶戦で投手に抜擢された桜井弥一郎のお二人が、創世記の日本野球界に貢献した功績で野球殿堂入りしたことは大変名誉なことで、全国の高校でも他に類がない珍しいことである。(平成30年(2018)9月記)





## <文化交流会のご案内>

### ～なぜ家康は“彦根がイイ”と思ったのか？

#### ブラタモリ彦根＋石田三成の佐和山城跡

今回は、2017年12月9日放送の「ブラタモリ彦根編」の足跡を参照しながら、江戸時代からの城下町・彦根を訪ねます。家康は関ヶ原の戦い後、石田三成の佐和山城を廃し、新たに彦根城を建てることを決め、信頼する家臣・井伊家に彦根城を委ねました。当日はまず佐和山城跡に登り彦根の地形を遠望したのち、彦根城を中心に旧大名庭園の玄宮園、井伊直弼の原点「埋木舎」などを回ります。また昼食は、近江牛料理の人気店“せんなり亭”に席を設けております。知られざる魅力が満載の彦根をどうかお楽しみください。



彦根城



佐和山城跡



お城に通じるキャッスルロード

[日 時] 平成31年3月30日(土) 9時30分～16時半頃

[集合場所] JR彦根駅 西口方面待合室

[集合時間] 9時30分

[交通案内] JR大阪駅より新快速で約1時間20分・JR京都駅より新快速で50分

JR大阪駅 8時前後 — JR京都駅 8時半ごろ — JR彦根駅 9時半ごろ

※来年の時刻表なので目安です。参加者には3月初めにお知らせします。

[行 程]

10:00 JR彦根駅発巡回バス乗車 10:08 龍潭寺前駐車場着(佐和山城跡)⇒龍潭寺拝観⇒

佐和山城跡登山(登山口⇄頂上 約1時間20分) 12:08 佐和山城跡発 巡回バス乗車

12:20 夢京橋キャッスルロード着 12:30『せんなり亭二九食や』にて昼食(1時間程度)

午後は、善利足軽屋敷⇒彦根城⇒玄宮園⇒埋木舎を巡り、彦根駅で16時半ごろ解散します。

[会 費] 6,000円(昼食代・巡回バス代・拝観料・ガイド代)当日集金します。

[持ち物] 雨具・健康保険証・杖(必要な方)

[特記事項] 雨天決行。悪天候など開催不可能の場合はできるだけ早めにご連絡します。

当日は、彦根城・佐和山城跡をメインに城下町を散策しますので、歩きやすい靴でご参加願います。佐和山城跡までの距離は短いですが、急な所もあります。ゆっくり登ります。

都合により、昼食からの参加や、昼食後の行程のみの参加も可能です。(要事前申込)

[申し込み] 2月末日までに、E-mail、FAX、または郵便にてお申し込みください。

〒520-0013 大津市勧学2-7-12 尾崎忍 (自宅) 077-521-3839 (携帯) 090-9054-3853

E-mail : lziak1927@cocoa.plala.or.jp FAX : 077 - 521 - 3839 (尾崎宛)